

富士見市基本構想策定ふじみ市民会議
平成22年度第2回 教育文化部会 会議録

| |
|---|
| 日時：平成22年7月14日(水) 午後7時～午後9時15分 場所：市役所1階 全員協議会室 |
|---|

出席状況

| | |
|------------|--|
| 市民会議委員 | 高橋委員、阿部委員、石井委員、岩田委員、西山委員、羽石委員、深田委員（欠席3名） |
| 庁内専門部会員 | 教育部長（総務担当）、教育総務課長、協働推進課長 |
| 事務局（政策財務課） | 吉野、林 |

| | |
|-----|----|
| 傍聴者 | なし |
|-----|----|

| 内 容 | |
|------------------------|---|
| 1 開 会 事務局 | |
| 2 あいさつ 市民会議 部会長あいさつ | |
| 3 検討事項 | <p>・第5次基本構想・前期基本計画のうち、前回会議に引続き大柱ごとに検討した。今回会議で検討した大柱は、第3章「生涯にわたる学習により、心豊かに輝く人のまち」にある「人権の尊重」「生涯にわたる学習・教育環境の充実」「市民文化の創造」「スポーツ・レクリエーションの推進」「文化財の保存と活用」の5本。</p> <p>○質疑・意見</p> <p><大柱 人権の尊重></p> <p>委 員：施策の内容（1）「人権教育・啓発の推進」で学校、企業などを対象にした教育・啓発活動とは。</p> <p>専門部会員：例として、企業対象には社員採用に際して家庭・経済環境にまで踏み込まないような一定のマニュアルに基づく面接の実施や、市民対象には広報紙での周知、市職員には各種研修を通じて、同和問題、外国人、高齢者、障害者などの差別をなくすよう教育・啓発を行っている。</p> <p><大柱：生涯にわたる学習・教育環境の充実></p> <p>委 員：施策の内容（2）「多様な学習・教育機会の充実」で現代的課題とは。施策の内容（5）「図書館サービスの充実」でコンビニで図書を受け取りできる市町村があるが、行政からの要望によるものか。</p> |

専門部会員：少子高齢化、情報化、国際化などの現代社会の問題がある。また、人間関係の希薄化という問題もあるが、再構築するためには学習を通して点から線、面へとつなぎ新たな解決の道筋となるよう学習機会をさらに充実する必要がある。図書の配本は、公民館、交流センターにボックスがあり返却できる。職員を通じて受領もできる。公民館では夜10時まで可能である。コンビニでの受領は行政から働きかけたものではないか。

委員：全体として生涯学習が浸透していないような印象がある。施策の内容(5)「図書館サービスの充実」で図書館に行けない入院中の人への配本サービスや学校図書の充実が必要と思う。市民から不用となった図書を集めボランティアが整備するなど市民との協働も入れたらどうか。

専門部会員：体の不自由な方へ朗読ボランティアによる読み聞かせのテープを届けている。学校図書の充足率は数値では100%満たしているが、古い図書もある。学校司書、図書館整理員などによって本に親しむ環境を進めていく必要がある。

専門部会員：10年先の構想という点で、電子書籍の普及が考えられるが、現時点での言及はむずかしく表現していない。

委員：今ある本を電子化するのは可能だが、紙媒体も残るといわれている。

委員：中学校の図書室を見たところ、利用の形跡がない。一定の休み時間しか貸し出しを行っていないため、図書館整理員を増やし利用時間を拡大してほしい。

専門部会員：中学校全体の傾向なのか、学校応援団の活用で図書整理員の対応ができないかどうか、学校応援団未設置の中学校は設置を拡大していくかなど、担当課に確認したい。

委員：生涯学習には大学やNPOとの連携も必要ではないか。

専門部会員：NPOとの連携や市民協働による公共空間をつくることは大切であり、実際に市民大学では行政課題に沿った調査研究、学習が行われている。また大学との連携も検討している。(2)多様な学習・教育機会の充実に、このような意図を含めている。

委員：若い人たちが大学のノウハウにふれる機会をつくり、仕事に生かせれば若い世代の転入が増えるのではないか。大学との協定の利用を拡大してはどうか。

専門部会員：文章のボリュームに制約があり全てを表現することはむずかしいが、リカレント教育の意図も含めた考えとしている。

委員：(1)子どもから高齢者まで～ (2)乳幼児期から高齢期に至る～の違いについて。

専門部会員：(1)は対象者、(2)は各時期における課題、という使い分けをしている。

委員：(4)誰もが利用しやすい施設となっているが、施設予約が抽選となったり申し込んでも借りられない場合がある。有料なので広い部屋を少人数で借りる場合は3等分して貸し出すなどの工夫がほしい。

専門部会員：誰もが、というのは、これまではバリアフリーという観点だったが、今後はユニバーサルデザインに沿った施設という考えである。学習の場を確保するには一定のルールを基にした予約方法が必要となる。間仕切りできる施設もあるが隣室の声が聞こえる使いづらさもある。貸し出し時間単位をもう少し細かく

する検討もされている。

委員：学習機会を充実するには、学校開放の利用も必要と思う。

専門部会員：校舎の構造上の問題もあるが、第1章にあるように学校・家庭・地域が一体となった教育の視点で、夜間帯の学校利用について検討をすすめていく方向。

委員：(3) 情報収集・提供、相談機能の充実で、どの施設でも相談が可能なのか、取次ぎなのか。

専門部会員：施設で差がないよう(4)で施設間のネットワーク化を位置付けている。

職員の力量による差があるのが現状だが、情報をネットワーク化し誰が対応しても同じ結果が得られるよう図っていきたい。

委員：誰に相談してよいか分からない場合、窓口を一元化したほうが利用しやすいという声がある。

専門部会員：例えばイベントカレンダーを作り誰でも情報入手できることは一元化となる。どの施設でも市民活動の情報も含め、同じ情報が収集できようネットワーク化を検討する方向としている。

委員：現状・課題に人材バンク、出前講座があるが、これに対応する施策は。

専門部会員：課題のほか特色ある現状も表記しているが、広くは(2)に含まれる。

<大柱 スポーツ・レクリエーションの推進>

委員：(2) 学校体育施設開放運営協議会とは。

専門部会員：登録団体利用者が集まって利用日時を調整する会議。

委員：市民が身近に利用しようと思っても個人利用はむずかしい。例えば中学生がバスケットボールを気楽に出来るような場所があるとよい。

専門部会員：自由に利用する場合、個人利用では責任者の不在、利用者がいない時間帯が出てしまう可能性などの問題がある。個人利用については課題である。

委員：(1) 地区体育祭への支援とは。

専門部会員：地域密着型事業として、当日プログラムの作成や学校の先生の協力など準備段階での支援がある。地域コミュニティの希薄化から人が集まらない。特に若い人の参加が少ないので、関心を持って参加をしてもらうような土壌づくりが課題となっている。

委員：若い人の参加が多い事業からアイデアを共有することが必要ではないか。

委員：行政主導で参加を促したほうが集まりやすい事業もあるのではないか。

委員：親子参加できる事業は人が集まりやすい。例えば縄文マラソンなど。

委員：(1) 相談・情報提供の窓口はどこか。

専門部会員：生涯学習課を窓口として、収集した情報を体育館でも共有する考えとしている。

委員：キラリふじみは市のランドマークだが、スポーツでも話題性のあるものでPRできるともっと楽しいまちになるのでは。

専門部会員：地域活性化担当課で市のネームバリューの上がるような取組みを検討している。

<大柱 文化財の保存と活用>

委員：水子貝塚公園の復元住居に自由に出入りできるとよい。公園内でのキャンプはどうか。

専門部会員：出入りできる棟もあり、夏には親子で宿泊体験できる事業も組んでいる。火の取扱いは縄文土器の野焼きなど限定され、一定の管理が必要となる。

委員：無形の文化財とは。都市化しふるさとがなくなりつつあるので、失われつつある言葉、食べ物を掘り起こし伝承することも大切。

専門部会員：無形文化財は囃子、獅子舞などの芸能としている。入間東部地域で民俗関係の調査を行い、衣食住、植物、通過儀礼、昔話などの資料が難波田城資料館にある。

委員：歴史のわかるコラムを広報に掲載したらどうか。

専門部会員：以前シリーズで掲載していた。市制40周年に向けて市民大学では富士見市検定のような取組みを検討している。

委員：(3) 後継者育成などの支援とは。

専門部会員：保存会へ道具修理費用や講習会などの補助を行っている。

委員：長男しか入れない団体など閉鎖的な面がある。

専門部会員：時代の変遷にあわせ変わっている面もあるが、神事であり変わらない面もある。そこが伝統でもある。既存団体を残すための支援、後継者育成としている。学校などへ指導にしている団体もある。

委員：郷土意識が育めるようとするので、意図が汲めるような表現が必要。

<大柱 市民文化の創造>

委員：芸術性の高い作品の創造とは。

専門部会員：文化活動を市民が行っているなか、有形・無形の作品を創造し発信していくことを表現したもの。

委員：中学生が社会体験として舞台の裏方に参加できるような機会をつくったらどうか。

専門部会員：学校教育の場で体験できるような仕組みづくりについて担当課に伝え検討したい。

委員：中学生が舞台上で発表できる機会を充実することは、今後の担い手育成につながることもある。

委員：学校との連携の施策についてもっと検討したらどうか。

専門部会員：担い手育成に含めた表現としている。キラリふじみの趣旨である、鑑賞、交流・育成、創造発信の3つをまとめて表現しているがわかりづらいので再検討したい。

委員：施策の内容は全体的に具体性のあった文面にしたほうが市民はわかりやすいのではないか。

事務局：施策内容は相互に連携している部分もあり、全体的な調整を図ったうえで検討していきたい。

- ・検討内容は一通り終了したため 22 日の会議はなしとする。
- ・会議を踏まえた資料については後日送ることとし、8 月上旬を目途に次回会議を開催する予定。

5 閉 会